

第1回彦根市公共交通活性化協議会 公共交通連携計画策定分科会 議事録

開催日 平成20年7月7日(月) 午後6時30分～午後8時00分

開催場所 大学サテライトプラザ彦根

議事 地域公共交通総合連携計画策定事業の概要
事業計画およびスケジュール

バスを使わない理由

- ・モータリゼーション(自動車の普及)で自家用車が高まり公共交通が見向きされなくなってきた
- ・自動車の利便性には勝てない?
- ・限られた財政で公共交通をどう支えるか(バス補助年間1億円を超えるのを減らす)
- ・フタバス(スーパー無料バス)は結構乗っている。買物交通を上手く取り込むことが必要。
- ・車イスの障害者はバスよりタクシーを利用する。
- ・デイサービスが使いやすい。
- ・バスを使いたいのは飲み会のとき。その時間にはバスがない。
- ・バスは雨がふったり汗をかいたりすると朝の混雑で体が引っ付いて不快という理由もあるのでは。
- ・彦根では自転車か車という意識
- ・時間帯の問題か。
- ・若者の意識としてバスに乗る発想がない。
- ・健康志向で自転車か徒歩
- ・芹川や犬上川で区切ったエリアでバス利用の形態が違うのでは。

利用の現状・課題

- ・稲枝循環線 朝 タカタ従業員 昼 お年寄りの病院買物利用 夜 ほとんど乗っていない(自家用車送迎ばかり)
- 蚊野線 聖泉大学生は大学送迎バスを利用(時間が合わない?)
- ・オーミケンシなどの多くの従業員を抱えた企業は路線バスしか利用できない状況 銀座も栄えていたが、従業員人口を下げられてバス利用も減ってきた
- ・4条(乗合バス運行)で民間が引く系統とコミュニティバスでは、路線の引き方の考え方が違う。空白地を埋めるコミュニティバスは利用がない。利用のあった系統からこういう系統に投入していったら利便性が低下、利用者が離れた。ニュータウンなど潜在需要のあるところは投入すべき。需要のないところはデマンドタクシーなどでカバーして、バスと組み合わせしていくべき。
- ・高齢者福祉施策として小判手形の定期部分に投入してはどうか
- ・ガソリン代が上昇しているのでPRのチャンス

コスト削減

- ・乗合タクシーで上手くいっているのは米原市。
- ・経費では人件費がいちばんかかるので車両小型化よりデマンド型が一番コスト削減になる。

自転車利用との競合

- ・接続が悪いと不便というイメージが定着。5分、10分で違う。ただ一つが悪いとそれがイメージの低下になる。イメージをいかに悪化させないか。
- ・自転車にも乗れない人が問題。誰も送ってくれる人がいないような人。
- ・自転車とバスは共存できる。マイカー利用をなるべくバスにもっていきたい。
- ・自転車は購入費用や駐輪費用がかかる。バスの定期などと組み合わせていくことも。

利用促進のアイデア

- ・2階建てバスのように1階に荷物収納スペースがあれば(車いすやベビーカーが入る)
- ・ニーズに合わせた運行事例
京都：よるバス　つくば：大学一年生に年間3000円パスで乗り放題
- ・雪や風で利用者が激増する。西高校生など。臨時便を出して対応している。潜在需要が多いのでは。
- ・天候に左右されないように母数をしっかり確保できるようにすべき
- ・回数券や定期券は今でもサービスがあるが、ポイント制にするとかできるか
- ・高校が全県1区に変わっているので全県的に利用できる通学定期を、年間キープできるように割安にならないか考えている
- ・免許返納定期を検討中
- ・リストバンド定期とか、高校生の「幸せになるバス」口コミとか。
- ・文化プラザではイベント終了午後9時に臨時バスを増発してもらった。企業から臨時バス増発できるか？　バス路線上で同時刻であればできる。コミュニティバスは収入増にならないと補助が増える。
- ・買物を絡めてお得感が得られるものを。年間パスなど。商店街でCPポイント3倍をされた
- ・お店情報掲載や路線バスでの観光PR
- ・立命館大学線に入れている時刻表QRコードはお店情報を載せられる。
- ・びーめいとタイアップするのも。情報誌とタイアップしている地域がある。

調査について

- ・学生は面倒くさいのは避ける。半強制的に参加させるのがよい。
- ・参加して得られる成果を理解させないと。ニュースレターを学生に配るなどして意識を持たせる。

会議の進め方

- ・バスを考える視点は市民側か行政側か？市民側の視点でつぶしていったから、できないを考えると。
- ・高齢者仲間での情報交換をどのように持っていったらよいか
- ・小地域単位でどのようにまとめるのか
- ・老人福祉センターが3つある。バス利用者が多いのでこういう場で情報交換をしてほしい。